

## 本プログラムの学習経過を記したエッセイの記述例

「修了証B」「修了証C」の申請に当たって、学習経過を記したエッセイ（1600字以上）の提出が必要です。エッセイに記述すべき事項及び書式は以下のとおりです。

- ・氏名、所属高等教育機関名、学部／学域学類名、学年、学籍番号。
- ・「修了証B（ステップ2）」「修了証C（ステップ3）」のどちらの申請に対するエッセイであるか。
- ・どの科目・講座・個別プログラムを、いつ受講したのか。その科目・講座・個別プログラムは、どのような形式・内容で、それによってどのような知識・能力・問題意識等を獲得したか。また、その科目・講座・個別プログラムを受講して、感じたり、印象に残ったり、役だったと判断出来る部分があれば、記入すること。
- ・これらの受講を通して、現在、どれだけの能力が獲得できているかをルーブリックに基づいて自己診断すること。
- ・書式については、原則、Word形式、40字×36行で作成すること。表紙は特につけなくてよい。Word以外のワープロソフトを使う場合でも、40字×36行で作成すること。なお、やむを得ず手書きの場合は、B4版400字詰め原稿用紙を使うこと。

### ○「修了証B」申請に対するエッセイの見本

本プログラム（ステップ2）までの学習経過

所属高等教育機関名  
学部／学域学類名 学年 学籍番号  
氏 名

私は、平成〇〇年度前期にステップ1第1ブロック該当科目「石川県の市町」、平成〇〇年度後期に第1ブロックに該当すると思われる本学授業「金沢学入門」と、第3ブロック該当プログラム「国際ビジネスリーダー育成講座」を受講しました。平成〇△年度には、私の所属する●●ゼミが第2ブロック該当の「地域課題研究ゼミナール」に採択されました。

「石川県の市町」は、毎回県内市町の首長・幹部がオムニバスで担当する授業で、主に……について学び、……についての知識を獲得しました。特に……という講義内容は重要と感じました。

「金沢学入門」は、……が担当する授業で、主に……について学び、……の知識を獲得しました。特に……の講義内容が印象に残っています。

「国際ビジネスリーダー育成講座」は、県内企業のトップや海外経験のある企業人がオムニバスで担当するプログラムで、主に……について学び、……のことが理解できました。特に……という体験談は、今後の進路を考えるうえで大いに役立ちました。

●●ゼミでは、実際に○●町の……に行き、その住民とともに……という課題について検討しました。具体的には、……について主体的に取り組み、……のような成果を得ました。年度の最後に、……で報告を行いました。この経験を通して、……

についての能力が獲得できました。

現状をルーブリックに基づいて自己診断すると、これらの受講を通して、課題解決型グローバル人材として必要な 5 つの能力のうち、特に・・・の力がつき、全能力平均レベル 2.5 以上、行動力レベル 3 以上の力に達したものと判断されます。

## ○「修了証C」申請に対するエッセイの見本

### ステップ 3 までの学習経過

所属高等教育機関名  
学部／学域学類名 学年 学籍番号  
氏 名

私は、平成〇〇年度後期にステップ 1 第 1 ブロック該当科目「石川県の行政」、平成〇△年度前期に第 3 ブロック該当プログラム「かなざわ国際みらい塾」と第 2 ブロック該当科目「里山体験実習 in 能登半島」「能登島丸かじりフィールド教育講座」「インターンシップ」を受講しました。平成〇△年度後期から 1 年間は、交換留学で××××大学に 9 か月間留学しました。

「石川県の行政」は、毎回石川県庁の方がオムニバスで担当する授業で、主に・・・について学び、・・・についての問題意識を獲得しました。特に・・・では行政のむずかしさを感じました。

「かなざわ国際みらい塾」は金沢青年会議所が主催する留学生とともに学ぶプログラムで、留学生とともに主に・・・について学び、・・・を獲得しました。特に・・・の活動が印象に残っています。

「里山体験実習 in 能登半島」は集中講義で、実際に・・・に行き、・・・という活動をしました。能登半島の・・・という魅力を発見しました。「能登島丸かじりフィールド教育講座」は石川県立大学が主催する講座で、能登島の・・・へ行き、・・・という活動をしました。この活動では、特に・・・に気がつきました。

「インターンシップ」では、△△市にある〇〇〇〇会社に、××日間行きました。この会社は・・・という仕事をしており、・・・という成果を上げています。インターンシップでは、・・・を体験し、・・・を獲得しました。この体験は、今後の進路を考えるうえで大いに役立つものと思います

派遣留学では、××××大学で主に・・・について学びました。この間、・・・のような体験をし、・・・の能力を獲得し、・・・についての自信が持てるようになりました。帰国後は、大学主催の報告会で留学体験の報告も行いました。

現状をルーブリックに基づいて自己診断すると、これらの受講・体験を通して、課題解決型グローバル人材として必要な 5 つの能力のうち、特に・・・の力がつき、全能力平均レベル 2.8 以上、行動力レベル 3 以上、国際力レベル 3.0 以上の力に達したものと判断されます。